

令和7年2月20日

東松島市議会議長 小野 恵 章 様

(会派名) 清 新 会

代表者氏名 阿 部 勝 徳

### 会 派 活 動 実 施 報 告 書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、  研修費、  広報費、  広聴費、  要望・陳情活動費、  会議費

2 活動名称： 視察研修

3 実施期日： 令和7年1月20日(月)～令和7年1月22日(水)

4 活動成果： 兵庫県淡路市では阪神淡路大震災で現れた野島断層及び関連伝承施設の保存、展示状況、について学んだ。和歌山県田辺市、みなべ町では梅干しの加工現場、梅の栽培、情報発信等について学んだ。

5 添付書類： 別紙報告書



## 清新会 視察・研修報告書

---

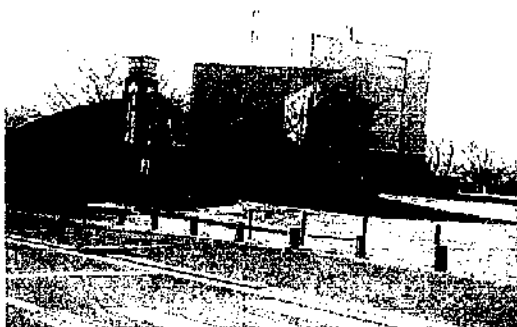
研修先： 兵庫県淡路市、和歌山県田辺市、和歌山県みなべ町

期 間： 令和7年 1月20日(月)～1月22日(水)

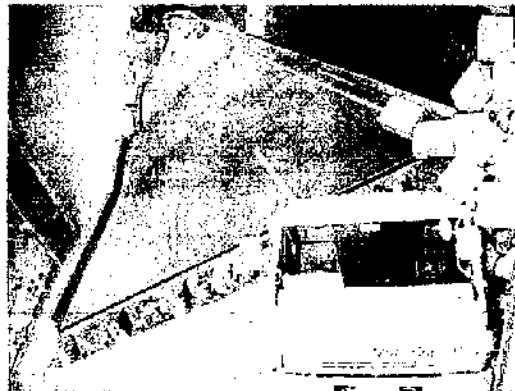
1月20日

兵庫県淡路市北淡震災記念公園

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で現れた断層をそのまま保存。阪神大震災は兵庫県南部の六甲・淡路島断層帯が活動したために起こったとされ、中でも構成断層のひとつである野島断層は淡路島北西部に約10キロメートルに亘って地表にずれが表れ、最大1.2メートルの隆起と2.1メートルの右横ずれを生じた。断層の一部が北淡震災記念公園内の「野島断層保存館」で保存され、国指定天然記念物となっている。記念公園館内には、震災で根元から倒壊した高速道路の大型写真を始め、様々な震災の記録が展示されている。野島断層保存館では1メートル超の地層の隆起(断面)と横ずれがそのまま保存しており、地震・自然の力の大きさを感じた。大震災の記憶を風化させず、地震や自然災害への備えの大切さを再認識することになった。



【北端震災記念公園の遠景】



【倒壊した高速道路（再現模型）】



【地面を掘り下げた活断層断面の展示】

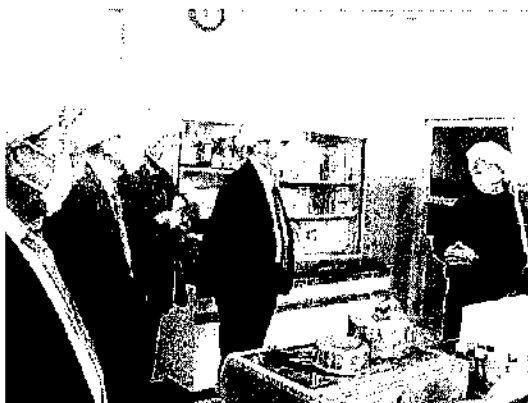


【野島断層のずれをそのまま屋内保存】

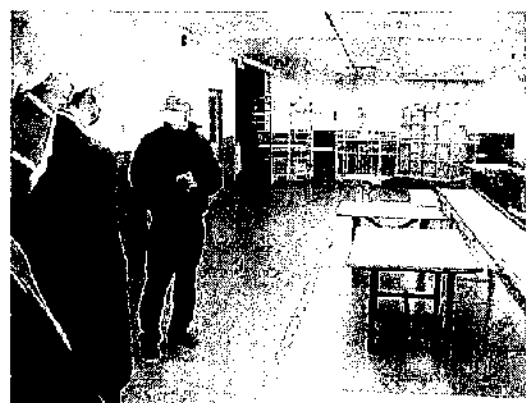
1月21日

和歌山県田辺市上芳養（かみはや）・岡畑農園

日本一の梅の生産高を誇る和歌山県で梅を栽培し、工場では梅干しづくりを行っている。同社は山間部にあつて、山の急斜面に工場が建設されている。スタッフに工場内を案内され、フロアごとに加工工程の説明を受けた。ただ、工場は梅干しづくりのシーズンでは無かつたので、実際に梅干し加工やパック詰めなどラインの様子を見学することは出来なかつた。岡畑農園では約7ヘクタールの樹園地を自社所有しており、その他に周辺の農家から梅の実を大量に集荷して梅干しづくりを行っている。また、市内のJRみなべ駅前到店舗を開設して梅干し、梅菓子、梅酒などを販売している。周囲の山は急峻で、このような場所、山肌に梅を植栽し実を収穫することは、我々にはとても考えにくい。この様な立地の下で「日本一の梅」が生産され、全国に届けられているとは驚きである。



【梅干しづくりの説明を受ける】



【工場内の加工ラインは休止でした】

1月22日

みなべ町うめ振興館

みなべ町は全国一の梅の産地で、「梅干しでおにぎり」条例というユニークな条例の制定など梅のまちをアピールしています。そのような中「梅の里みなべ町」の顔として世界に情報発信する拠点施設としてみなべ町うめ振興館が建設されました。(1997年3月)

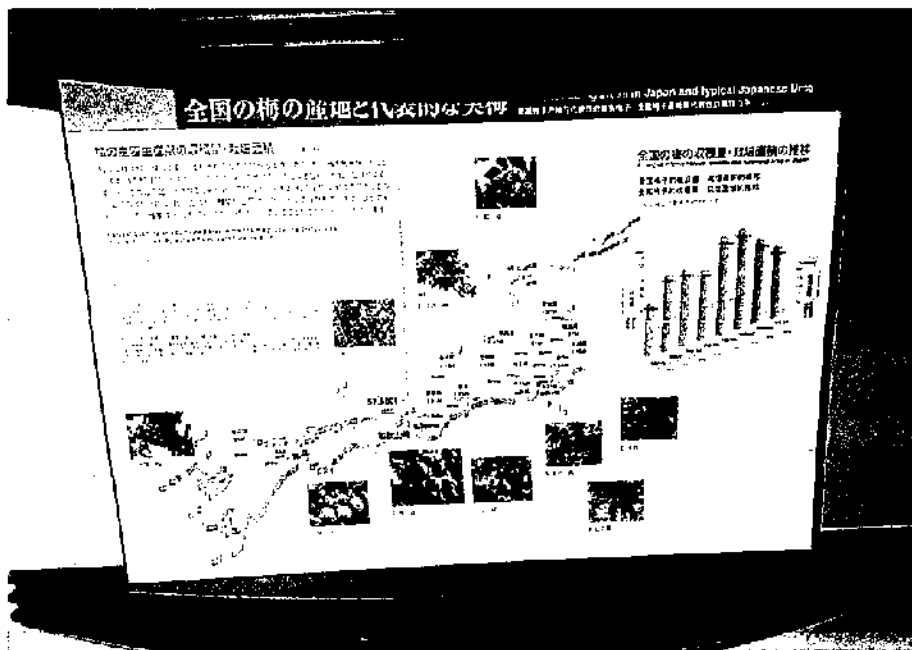
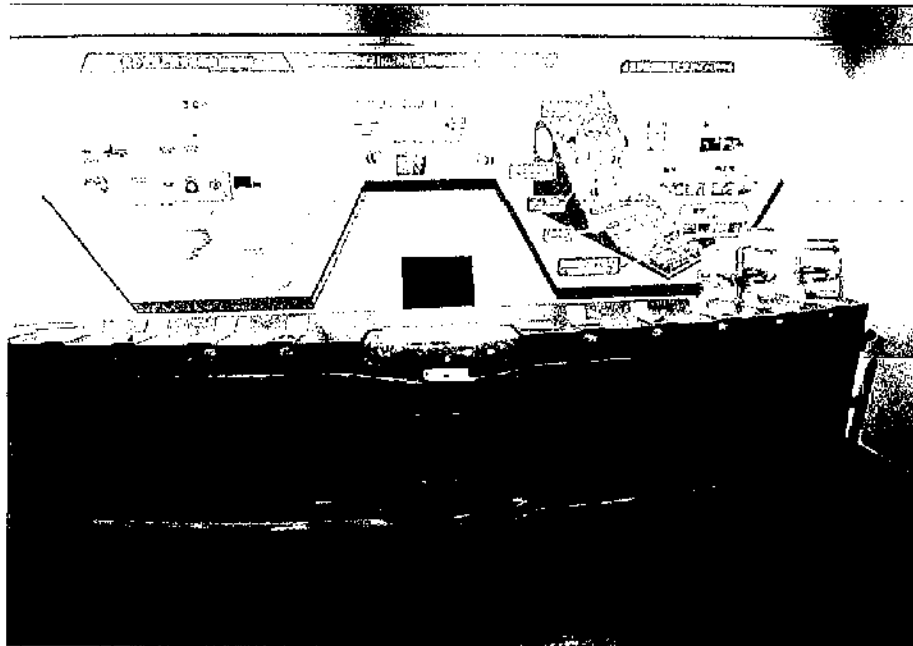
施設は、鉄筋コンクリート4階建てで1階に歴史民俗資料室、2階は総合案内所とうめ資料室、3階は物産販売所と休憩所、4階は屋上展望所となっています。

歴史民俗資料展示室には、原始古代・中世・近世のみなべ町の農耕と人々の歩みを中心に、それぞれの時代を象徴する展示物やビデオで紹介。うめ資料展示室では(年中満開の梅林を見ることができる「南部梅林」の大パノラマ)(梅干しの科学と神秘の謎を解くサイエンスゾーン)(梅はどこから日本にやって来たのか)(日本人と梅との深い関係)などの事柄をわかりやすく展示解説している。物産販売所はまちを代表する「南高梅」加工品をはじめ地域の物産品が販売されている。屋上からは町内が一望、梅林も見ることができ2月中、下旬には花が見ごろになるとのことです。日本最大の梅の産地の、梅にかける思いが伝わる施設でした。



館内展示の状況





所感

○兵庫県淡路市 北淡震災記念公園

平成7年1月17日早朝に発生した阪神淡路大震災は、死者6434人、行方不明者3人、建物の被害は全壊104906棟、半壊144274棟、全焼7036棟、半焼96棟に及び、また重要なライフラインに甚大な被害をもたらした。当日早朝のあまりに悲惨なニュース映像は30年たった今でも脳裏に焼き付いています。今回はその大震災を伝承する施設である「野島断層保存館」を視察してきた。平成10年の開館時は年282万人の入館者があったが、時がたつにつれ大幅に入館者が減ったことを問題視する新聞記事を目にした事があるが、平日のためか入館者はまばらだった。保存館は断層部分百数十メートルを建物で覆い当時のまま保存しており貴重な施設だと思った。しかし断層部分は風化により丸みを帯びてきており保存の難しさを感じられる。この公園には被災家屋がそのままメモリアルハウスとして展示、また地震の揺れが体験できる震災体験館などを併設しており震災の伝承に大変有効な施設と認識してきた。また、併設されていた物産館の跡地に観光施設を開設予定とのこと、観光を含めた伝承施設として入館者の増加に期待したい。

本市でも震災を伝える施設として旧野蒜駅を震災復興伝承館として活用しているが、旧駅舎を含めホームや線路など劣化対策や伝承施設として利用者を呼び込む方策が必要ではなからうか。

○和歌山県田辺市 岡畑農園

本市でいえば条件不利地、耕作放棄地になりかねない場所での梅の栽培が広範囲でされている。長い歴史と気候、土壌条件などが梅の栽培に適していると推察される。その梅を利用した梅干しや、梅の加工品の製造はまさしく6次産業化のお手本であり周囲の農家を含めた農業振興に大いに貢献している。完熟した梅の収穫方法や防除、剪定などについても話を聞き、まさに「目から鱗が落ちる」だった。本市でも「令和の果樹の花里づくり事業」として梅の栽培を手掛けているが、被災跡地の管理のためやむを得ずの感があり、なかなか栽培や管理が行き届いていないのが現状である。この視察で知り得たことを事業推進のための提言等に活かしていきたい。

○和歌山県みなべ町 うめ振興館

うめ振興館は梅の情報発信のための拠点施設であると共に、道の駅として利用されている。物販スペースが限られており食堂もなく、イメージする道の駅とは違ったが、梅に特化した施設はブルーインパルスをイメージした本市の道の駅と通じるものが感じられた。今後の本市道の駅活性化、令和の果樹の花里づくり事業の推進等提言の参考としたい。